

## 自由進度学習

### 木曾町立福島小学校 の取組

#### 単元内自由進度学習に取り組む

学び方を選択し、自分のペースで好きな場所で学んだり、自分なり問いを自分なりの方法で学んだりすることができる。児童は、単元の目標と内容に基づき各自で計画を立て、一人で学ぶ、仲間同士で教え合う、先生に質問するなどして学習を進める。基礎的な学習が終わったら、発展的な学習にも挑戦。

#### 【児童の感想から】

- ・僕は、どんなに間違えてもやるっていう力がついたと思う。  
(3年生)
- ・自由進度学習に慣れてきた。見通しをもってたくさん進められるようになってきた。(4年生)
- ・一人で全部考えるんじゃなくて友達の考えを参考にしたりして学習できた。(5年生)
- ・人に惑わされず、自分の考えが発展すると思いました。自分で考えることこそ頭に入るということ学びました。(6年生)



#### 【取組の成果】

- ・児童が安心し、互いを尊重する学びの環境ができる。
- ・児童は、教師と対話しながらアウトプットすることで、定着を進めることができる。
- ・必要感をもった自然な児童相互の関わりが生まれる。
- ・教師の授業観が「教える」から「支え促す」に変化。

※本年度は、2教科をペアリングした単元内自由進度学習を実施。さらに、3～5教科の組み合わせによる単元内自由進度学習も研究している。

## 異学年複式学級での学び

## 飯田市立上村小学校 の取組

複式学級の強みを生かして、  
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る

### <同学年で学ぶ>

- ・同学年同士で考えを出し合う。
- ・コンパスの使い方を確認しながら進める。

実践例

算数：3年「円と球」  
4年「面積」

### 個人追究

各自がそれぞれ  
課題に取り組む

### <異学年で学ぶ>

- ・教えたり教えられたりする。
- ・半径や直径と面積との関係について自然に会話が生まれる。  
(予習・復習が自然におこる)

### 協働追究

異学年の児童が  
同じ教室で学ぶ



算数の授業（個々の課題を協働的に進める）

見守り型支援を行うなかで、「単元内自由進度学習」にも取り組む

実践例

算数：3年「円と球」4年「面積」  
理科：3年「風やゴムの力」4年「電流の働き」

3、4年生が自分で計画を立てて、自分のペースで学習を進める。（単元内自由進度学習）

ガイ  
ダ  
ン  
ス

単元全体の  
目標や学習  
の流れをつ  
かむ

計  
画

各自で学  
習計画を  
立てる

追  
究

追究学習到  
達ラインに  
達した児童  
は発展学習

ま  
と  
め

学習内容  
の確認と  
振り返り

子どもにとって→異学年の協働的な関わりの中で、個人に任される部分が増えることにより、より主体的な学習となる。  
教師にとって→個や集団の状況を見取りながら、より柔軟な指導が可能になる。

## ICTを活用した学び

### 1人1台端末とクラウドを活用した先進的な実践事例の創出

自分の興味や疑問などを基に、クラウド上で情報を共有したり、意見交換したりすることによって、必要に応じて個別に追究したり協働的に学んだりできる授業の推進。

クラウドを活用して、生徒が相互に意見交換したり、各自がペースや学び方を選んで学習を進めたりする「個別最適で協働的な学び」が一層充実するよう、「生徒自身が学び方を決めていく授業」をテーマに、研究に取り組んでいる。

#### 実践例【2年生 社会科の授業】

「近畿地方の地方部の人口が増加している理由」について追究する社会科の授業では、各自が仮説を立て、裏付けとなる資料をインターネットで収集して持ち寄り意見交換する姿や、クラウドに書き込まれた意見を参考に仮説を検討し直す姿など、生徒が1人1台端末を自在に活用し、協働的に学ぶ姿が見られた。



【クラウド上の情報を基に議論する】

#### 【今後に向けて】

長野県ICT教育推進センターでは、現在、ICTの活用事例として、小川中の授業の様子を動画で撮影し、HPに掲載する準備を進めている。また、中学校では、この記録した動画を研究会に活用することも検討。個々の生徒の追究の様子を見合い、生徒の意識に沿った支援の在り方等について意見交換することを通して、今後更に、クラウドを活用した「個別最適で協働的な学び」が日常的に、どの教科においても展開されるよう、取り組んでいく。

## ICTと学校林を融合した学び

### 伊那市立 伊那西小学校の取組

#### Wi-Fiが飛ぶ学校林の中で様々な教育活動を実施

ベランダから一步出ると広がる本物の自然とICT環境が融合した環境で、少人数による細やかな指導、地域との連携を大切にしたい取組を進める。

#### 【「林間」と呼ばれる学校林を活用した取組】

- ・ 1学級の児童が全員座れる机とイスを備える「森の教室」を、地域の方の支援を得てリニューアル。Wi-Fi環境が整備されており、林間で見つけた生物の写真やコメント等を校舎に戻ることなく共有して発表し合うことが可能。
- ・ 「森はぼくらの教室だ」をスローガンに様々な教科学習に「林間」を活用。理科の授業では、毎年3～4年生が学校林の中でチョウの観察を行う。
- ・ 「林間」にある約1kmのマラソンコースの整備は、年に3回、県の林業センターの専門家の下、1年生から6年生の縦割り班によって行われる。
- ・ 企業の協力や地域住民による下草刈り等、学校林の管理を地域と連携して行っている。



#### 【小規模特認校制度を活用】

- ・ 2018年度より小規模特認校として、通学区域以外の市内在住児童の通学を受け入れ。
- ・ 通学区域外の入学・転学は年々増加。市外から伊那市内に移住して通学する児童もいる。

## 「個別最適な学び」とは

子供一人一人が自身の興味・関心などに応じて、探究課題や情報収集、まとめ方などの学習活動や学習課題を自らの学習が最適となるように調整する学び。

教師は、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法や教材、学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。

令和3年1月に示された「令和の日本型学校教育の構築を目指して」において、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。

### 「個別最適な学び」の推進のために

- ・これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努める
- ・個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援する
- ・子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していく

### 「個別最適な学び」の留意点

- ・「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」と一体的に充実することが重要
- 探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働する
- 他者を価値ある存在として尊重

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する **個別最適な学び**

往還

子供たちの多様な個性を最大限に生かす **協働的な学び**